

平成 27 年度 政策評価シート

基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
まちづくりの方向性	<p>自然環境、歴史・文化を保全・育成し、都会に近い身近な自然環境と田舎の風景、穏やかな住環境を活かした観光を振興し、農業と漁業の振興を図ります。</p> <p>また、地域の素材を大切に商品づくり等による商工業振興や、高齢者世代や子育て世代のニーズに応えた商工業振興を進めます。</p> <p>さらに、町の特性を活かした農業、漁業、商工業と観光の有機的な連携と、町民との連携・協力により、町の活性化を図ります。</p>

取組状況

	重点的方針	内容	実績の推移			備考
			H25	H26	H27	
1	高齢者等の安心な暮らし支援	町の自然、歴史・文化を発掘し活用するとともに、町民の暮らしに自然を取り込み、豊かな暮らしづくりを創造しようとする取組を、二宮の自然、文化、住環境の魅力づくりとして発展させます。	B	B	/	
2	「二宮ブランド」の開発と活性化	町の特徴を活かして、「子育て・子育ての町」として、安心して子どもを産み育てることのできるまちづくりをさらに進めていきます。 子どもたちの生きる力を育むために、学ぶ力の育成と体力の向上に取り組みます。 福祉、教育部門だけでなく、行政の様々な部門が連携して総合的な取組を行います。	B	B	/	
3	「みんながスポーツ」による健康づくりと賑わいの創出	町民や来町者が日頃から健康づくりやスポーツに取り組むように促し、健康づくりの町として、健康で活気のあるまちづくりに取り組めます。 スポーツは、仲間を通して、つながりやきずなを作り出します。町民や町民団体との協力・連携により様々な企画を行い、地域コミュニティによる「地域の力」の向上を進めます。	B	B	/	
4	多様な観光メニューの開発による観光の振興	町の歴史、文化、風景の魅力を見直し、その魅力を観光客に提案することや、町のブランド品の魅力を高め、魅力あるおもてなしを提供するなど多様な観光メニューを開発します。 観光協会と協力・連携して、買い物を楽しめるような体制を整えるとともに、観光客が様々な思い出を持って帰宅する「通年型日帰り観光」の開発に努めます。 これらの取組にあたっては、町外の他の地域との広域連携にも努めます。	B	B	/	
5	交流拠点の創出	基本構想「土地利用構想」で位置づけている交流拠点について、アクセスの向上と管理運営方法や魅力づくりを検討します。 町の玄関であるJR二宮駅周辺地区の交通環境を拡充するとともに、商店街と地権者の協力を得てまちづくりの検討を進めます。 東京大学農学部二宮果樹園跡地については、社会状況の変化や町民ニーズ、町の公共施設の立地状況を踏まえ、町民参加によって、土地利用や実現方を暫定的な土地利用も含めて検討します。その際に、町民の「まちづくりの力」による施設利用、民間の活力の活用等多様な実現手法を検討します。	B	B	/	

町民満足度調査の結果 重要度 100 重要 75 やや重要 50 どちらとも言えない 25 あまり重要でない 0 重要でない
 満足度 100 満足 75 やや満足 50 どちらとも言えない 25 やや不満 0 不満

	設問内容	重要度		満足度		重要度と満足度の差
		前回調査	H27	前回調査	H27	
	二宮の自然、文化、住環境の魅力づくり		74.1		53.8	20.3
高	生涯学習の役割の明確化		68.5		52.3	16.3
2	青少年の育成		72.3		51.3	21.0
3	文化振興の推進		68.3		55.0	13.3
4	ふるさと教育の推進		69.3		54.0	15.3
5	生物多様性の保全		78.8		55.3	23.5
6	循環型社会の推進		82.8		57.5	25.3
7	低炭素社会の形成		76.0		48.0	28.0
8	公共下水道の整備と管理		81.0		57.8	23.3
9	公園・広場の充実と適切な管理運営		76.5		49.0	27.5
10	緑地の保全と緑化の促進		78.5		58.0	20.5
11	町民活動創出支援		68.8		54.5	14.3
12	人権・平和の推進		68.8		53.0	15.8
	「二宮ブランド」の開発と活性化		70.4		49.2	21.2
1	農林業振興の推進		68.8		49.8	19.0
2	水産振興の推進		70.0		49.5	20.5
3	漁業基盤の整備・維持管理の推進		70.8		47.3	23.5
4	地域資源を活かした効果的な農地の保全		70.8		49.0	21.8
5	特産品の普及と二宮ブランドとの連携		70.5		51.0	19.5
6	魅力ある二宮ブランドづくりの推進		70.3		48.0	22.3
7	農・海・里山のあるまちづくり		72.0		50.0	22.0
	「みんながスポーツ」による健康づくりと賑わいの創出		64.8		53.3	11.5
1	地域スポーツの振興		64.5		54.8	9.8
2	活動支援の充実		65.0		51.8	13.3
	多様な観光メニューの開発による観光の振興		70.9		46.2	24.8
1	観光まちづくりの推進		68.5		46.0	22.5
2	商工業の振興		71.5		44.8	26.8
3	中小企業への支援		72.8		47.8	25.0
	交流拠点の創出		64.8		48.3	16.5
1	交流ゾーンの検討		64.8		48.3	16.5

総合評価	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>	B
	<p>説明</p> <p>基本構想「環境と風景が息づくまちづくり」における5つの施策のうち「二宮ブランド」の開発と活性化」「みんながスポーツ」による健康づくりと賑わいの創出」「多様な観光メニューの開発による観光の振興」「交流拠点の創出」について、町民が重要と考える割合と満足度の差に着目すると、「多様な観光メニューの開発による観光の振興」について、重要度と満足度の差がやや大きく、「みんながスポーツ」による健康づくりと賑わいの創出について、重要度と満足度の差が小さい。また、個別事業では、低炭素社会の形成や公園・広場の充実と適切な管理運営について、重要度と満足度の差がやや大きく、さらなる取り組みが求められる一方で、地域スポーツの振興と活動支援の充実、文化振興の推進、町民活動創出支援について、重要度と満足度の差が小さい。</p> <p>今後、町民や町民団体、関係機関が連携を図り、町内外の方に二宮町の魅力を知ってもらうための取り組みを推進するほか、環境問題に対する意識の高い町民とともに取り組む低炭素社会の形成や公園・広場の充実を通じ、自然環境に恵まれ、住みやすいというこの町の特徴を「二宮スタイル」や「二宮ライフ」などとしてブランディングし、PRしていく事業展開が必要である。</p>	

外部評価[まちづくり評価委員会]		
	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>	C
意見等	<p>環境と風景が息づくまちづくりについて、政策としての方向性は間違っていないが、施策については大幅に改善する必要がある。</p> <p>自然と触れあえ、手軽に海と山に行ける環境は二宮町の特長であり、その他にも様々な素材が存在している一方で、歴史や文化などの自然環境を一体にした情報発信が乏しく、日帰り観光客のリピーター確保や観光スポットの連続性や物語性が欠如している。特に、吾妻山の菜の花は認知度が高く、集客力があることから、人の流れや動線を意識し物販戦略に繋げるなど、町の活性化に結び付け、併せて、二宮ブランドを活用した戦略としての検討をすることが必要と考える。</p> <p>二宮ブランドの開発においては、コンセプトをしっかりと伝えるために、物語性を持たせることが重要で、民間、大学などとも連携し、行政、町民、生産者全てが共通認識を持ち、みんなで育て、発信することが重要となる。また、商品にこだわるのではなく、「こと(事)」すなわちサービスに対してもブランド認定をするなど、認定に関する枠を広げる必要がある。</p> <p>商工業の振興や地域経済の活性化のためには、横のつながりの強化、情報発信力の強化、マーケティング戦略が不可欠であるので、政策の取り組みにあたっては、単に合意形成のアンケートに頼るのではなく、ひとつひとつの特化した魅力を活かし、これまでにない発想や知恵を集結させることが、環境と風景が息づくまちづくりに繋がると考える。</p>	

町の最終方針[庁内評価委員会]

方向性

基本構想「環境と風景が息づくまちづくり」については、町民満足度調査の結果、及び、外部評価の意見等を受け、施策を一部改善する。

政策の実現にあたっては、自然環境や歴史・文化等、既存の地域資源を改めて見直すとともに、新たな視点による町の魅力の発掘や創出を図り、すべての世代の方が、性別を問わず、身近な場所で働くことや働き方が選択できる環境づくりを進め、観光振興だけでなく、商工業、農業、漁業の振興を図り、あらゆる世代のニーズに応えられるよう産業の活性化を図る。

また、既存のブランド商品に加え、町の自然や歴史・文化に触れ、体験できる機会づくりの提供や、町民の生の声によるプロモーション活動等、町民、行政、関係機関等が連携・協力をして、町内外を問わず、多くの人々がこの町の環境や風景を実感できる機会を創出する。

これらの取り組みを一体的に推進することで、環境や風景としての付加価値を含め、身近な自然環境、歴史・文化と田舎の風景が息づくまちづくりを進め、この町の魅力を最大限に活かした生活スタイルを「にのみやLife」として確立し、町の活性化を図る。